山鹿旅行

小浜北分会　一主婦

私たち主婦会の一行は、先日山鹿に一泊二日の旅行をしました。

毎日内職と主婦業に追われての連続なので、主婦たちがこうして旅に出ることがどんなに心身のくつろぎになることかを知りました。

保険センターでユカタに着替えながら、これは長い、これはミニだと、誰の顔もうれしげでした。

髪に白いものが混り、老眼鏡のお世話にならねばならない私たちも、今日ばかりは五つも若く見えました。それに別々の家庭の主婦なのに、一家族のような気持ちさえするのでした。

演会前にひと風呂浴びようと大浴場へ。きれいな湯があふれていて、日頃の疲れもいっぺんに吹きとんでしまいました。

山鹿の美しい夜景を見下しながら、アルコールはほとんど入っていないけれど、役員さんたちのフラダンスを皮切りに、歌と踊り、そして福引等混え、大変にぎわいました。余りのたのしさに、家に居る家族のこともすっかり一夜を楽しみました。

翌日は、午後三時湯の町山鹿に名残りを惜しみながら帰路に着きました。こんどの旅行は私たち主婦にとって、若さのエネルギーを保つための一服の清涼剤だったと、しみじみ感じているところです。

×

新聞〝主婦会三川〟から。この欄は、きたる新年特集号を機会に、うんと充実したいと思っています。特に新年特集号には、主婦の皆さんの〝姿見〟がほしいですね。

守る会加盟者紹介

ここに、八月中に〝CO患者守る会〟にご加盟くださった人々を紹介します。命を守るために、共に手をとり合って闘っていきましょう。

長嶺　律子　鹿児島市伊敷町
吉村　篤　大牟田市有明町
嶋田　洋子　〃　〃
嘉入　豊子　〃　〃
西村　宏泰　〃　〃
八木下　武　茨城県筑波郡伊奈村
桜井　行幸　埼玉県三郷市高須
永久　浩巳　北九州市八幡区尾倉
藤　隆徳　福岡市南区三宅
植松富士夫　長崎市網場町
松尾真由美　佐賀市鬼丸町
武広　辰次　鹿児島市上荒田町
匿名　大牟田市天領町
古屋　明美　東京都国立市北
鳥取県米子市西町　〃　〃
種子　和子　〃　〃
若原　秀雄　〃　両三柳
福沢陽一郎　〃　糀町
寺本ひとみ　〃　〃
岡田　尚久　〃　〃
佐賀　裕　〃　東町
青木　博美　〃　法勝寺
谷田　敏雄　〃　〃
矢崎　誠一　〃　〃
渡辺　康也　埼玉県上尾市小敷谷
古賀　広記　大阪府高槻市辻子
志村　優　山梨県甲府市宮前町
飯沼喜美夫　〃　美咲
木田　賢司　〃　湯田
笈井　博徳　東京都板橋区高島平
八杉　仲輔　〃　〃
岡崎　鉄美　〃　〃
川村　訓史　〃　双葉町
松下　秀次　埼玉県南埼玉郡蓮田
井口　勝義　〃　富士見市鶴間
高沢　寅男　東京都練馬区関町
菊池　広人　〃　谷原町
天辰　武夫　〃　杉並区下井草
長田　富次　群馬県佐波郡境町
島谷　文江　〃　桜川
岡崎　鉄美　〃　〃
藤本　肥睦　〃　久留米市安武
田中　勝国　〃　宮陣
上本　敏美　福岡市東区
福島　寛隆　鹿児島県国分市小川
吉本　哲郎　鹿児島市田上町
今門　昌子　鹿児島県枕崎市鹿籠
加治屋卓見　鹿児島市上荒田
前田　末彦　大阪市城東区古市
小川　忠義　東京都新宿区矢来町
松永　晃　千葉県野田市清昌町
山根　俊矢　鳥取県米子市
武田　卓　〃　〃
倉信　均　〃　〃
土佐　征英　〃　〃
永田　正勝　福岡県甘木市荷原
藤本　肥睦　〃　久留米市安武
岡田　英治　千葉県習志野市谷津
谷原町　石原　雅矢　八千代市萱田
田島　栄　群馬県佐波郡境町
池田　勤　〃　上武士

（以上八月に入会された人々）

CO患者の一人として生き続けるために

職場新聞〝いのち〟から

九たび巡り来た十一月九日は、結成。

ひいては、各地でひき起こしている大きな公害問題。どことして、また何をとって見ても三井系でない所はありません。

三井鉱山は、私たちCO患者と犠牲者遺族に対する補償は、まったく人をバカにした額しか出さず、さらに災害責任に関する問題になられた七百三名の方々、CO中毒患者および石狩炭鉱のガス爆発で犠牲になられた方々に対する、補償問題を考えずにはいられません。

そのことを思うにつけても、過去九年間の自分たち自身の苦しみを加算して、三井鉱山と自民党政府にあくまで災害責任をとらしめ、受けた損害を賠償させなければならないと思います。

私たちは被災以来こうむったあらゆる損害事実を通して、国鉄北陸線の列車火災事故の犠牲となられた三十名の方々、CO中毒患者になられた七百三名の方々、および石狩炭鉱のガス爆発で犠牲になられた方々に対する、補償問題を考えずにはいられません。

そのことを思うにつけても、過去九年間の自分たち自身の苦しみを加算して、三井鉱山と自民党政府にあくまで災害責任をとらしめ、受けた損害を賠償させなければならないと思います。

いま公害問題については、すでに十数年も前に犠牲となって亡くなられた方々まで、被災対象者として、各地で調査が行なわれています。これを見ます時、三川鉱炭じん大爆発の責任を追及し、損害賠償を要求することも、現在も苦しんでいるCO患者、ならびに遺族として当然なことであります。

加害者としての三井、当然なすべき行政指導を怠った自民党政府は、その後私たちが受けた精神的・肉体的損害に対して、それ相当な償いをすべきであるのは明確なことです。

私たちは、八年前の解決金や、現在生活補償として支給されているものは、あまりにも低すぎて、問題にする気持もありません。

私たちCO患者は、現在を、明日を生き続けねばなりません。そのためには、せめて現在人間として生きていかれる補償を要求する必要を、迫られています。

また三井鉱山も、非は非と自ら認め、私たちの声を聞くべきであります。

思うこと二つ

職場新聞〝あしおと〟から

汗

〝汗〟の言葉がある。人間が流す汗。

友達や、妻子のために流す汗は万金の価値がある。

虐げるものの手足となって流す汗は、一文の価値もない。ないばかりか、虐げられるものの側からみれば、まさにサルしばいで、サルが主人から気に入られるように流す汗を出したことが、二十数年たったいまようやく問題となってきた。

このほど〝小岱山八十八カ所開創事務局（代表＝赤星善弘さん）の手で、小岱山麓の〝棒〟（荒尾市）にその殉難碑〝不二之塔〟が建立され、去月二十九日除幕式が行なわれた。改めて心から、朝鮮人殉難者の冥福を祈ってやまない。

お星さま

気分は爽快、体調も十分。今日も元気に仕事ができるぞ。

現場に着いて一時間も仕事をしていると、不思議や坑内でお星さまが見え初めて来る。一緒に働いている仲間の一人が、「坑内で星が見えるぞ」と変な声でいっている。

高温個所での重労働。たしかにオーバー労働しているのだ。目がお星さまを見ているような錯覚を起こしているのだ。

こんな高温個所で、いつまでも仕事を続けていると、本当に身体をこわしてしまう。早く涼しい所に出て身体を休めないと、自分の身体であって、自分の思うような行動ができなくなる。

バカもん！　お星さまが見えるまで辛抱しなくても、早めに小休止をして、お星さまを見なくてすむようにするんだ。

坑外で見るお星さまはいかにロマンチックでも、坑内で見るお星さまは、いくら生活がかかっているとはいっても、身体の方がもたなくなる。

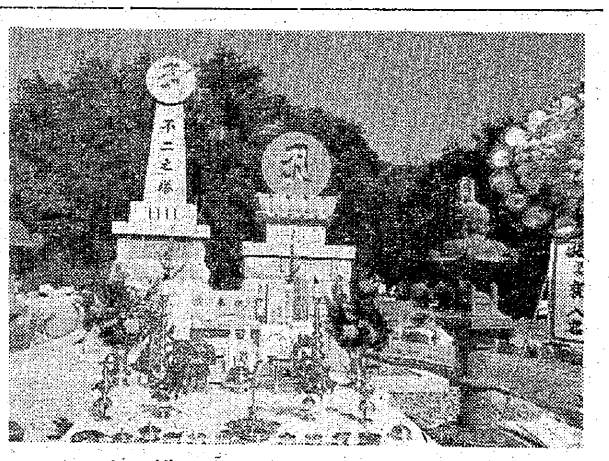
坑内では、お星さまなど見ることもなく、妻子のことなど楽しく考えながら仕事がしたいものだ。

同じお星さまを見るのなら、坑内のお星さまでなく、坑外のお星さまを、妻子と共に、夢を大きくもって見る方が、折角の毎日を心豊かに生活することもできる。

坑内では、お星さまの見えない職場環境をこそつくってほしい。

×

筆者名のないのが残念である。



荒尾市の樺に建立された〝不二の塔〟。その隣りの碑が、さきに建立された〝中国人殉難者の碑〟である。二つ並んで〝軍事大国主義、政策をとつている自民党政府に抗議している。

不二之塔、ついに除幕成る

去る太平洋戦争下に、中国本土から日本軍閥の手で強制連行され全国各地の産業と事業場で残虐な労働で死ぬまで酷使された中国の人々と共に、朝鮮人労働者もひどい差別と鞭の下で、この三池炭鉱での労働を強制され、多数の死者

にぎわった大運動会

荒尾4小校区で、参加千人

去る五日、荒尾四小校区協議会と同区CO患者守る会（いずれも小里透会長）の共催で、〝第五回四小校区大運動会〟が開催されてにぎわった。

折柄の晴天下、上は八十才を過ぎたおじいちゃんとおばあちゃんから、下は幼稚園前の幼な児に至るまで約千人が参加。

各種競技の結果、朝日丘団地支部が三年連続優勝。準優勝は倉掛支部だった。

この日は特に、熊本県第一区の衆議院議員選挙の坂本恭一・候補もかけつけ、その手で賞品授与などを受けもって手伝うなど、まさに校区ぐるみの一日に終始、全参加者の顔も心も、この日ばかりはゆるみ放題だった。

会場は、第四小のグラウンド。

大にぎわいの運動会

短歌会のお知らせ

三池文協短歌部では、次の日程により十一月の短歌会を実施します。同好の方の参加をお待ちしています。

日時　十一月二十五日（土曜）午後六時半
場所　新港港務所社宅一区十一棟二号　松原直吉氏宅